

県内男女100人に聞きました(インターネット&FAX&ヒアリング)

### 婚活支援について

本誌8月号のレポート「長崎県内の将来人口推計(Ⅰ)」によると、長崎県の人口(現在約130万人)は減少の一途をたどり、2050年には、90万人割れ目前となると想定されています。とくに、年少人口の減少には歯止めがかからず、将来の人口構成に深刻な変化をもたらすとみられます。

少子化の原因の一つに、未婚化・晩婚化があるとして、2015年3月には、国の少子化社会対策大綱に、結婚支援が盛り込まれ、長崎県でも、婚活支援センターを開設するなどの施策が講じられています。

そこで、今回は、現在独身の男女と、結婚してもいい年頃の未婚の子供をもつ親を対象に、結婚・婚活支援についての意識調査を行いました。

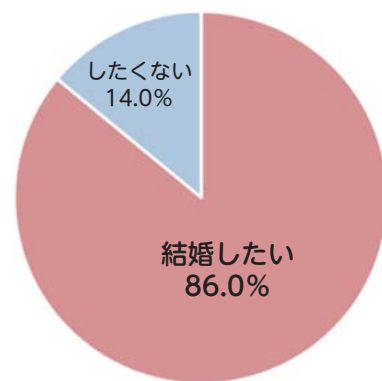
#### 独身男女「結婚したい」8割超

独身男女に、結婚の意向を尋ねたところ、86.0%の人が「結婚はしたいと思っている」と答えました。その理由として、「子供がほしいから」、「老後ひとりでは淋しいから」、「孤独死をしたくないから」といった意見が挙げられました。

一方、「結婚はしたくないと思っている」と答えた人からは、その理由として、「一度経験してこりごりだと感じている。」、「仕事優先のため難しい。友人くらいでいい。」、「一人でいる時間が長く自由だから」といった意見が挙げられました。

これに対し、親世代の男女に、自身の結婚について尋ねたところ、98.0%が「結婚してよかった」と答えました。その理由としては「子供ができ、子育てを通じていろんな経験、人間的成長ができたと思うから。」、「大変な事もあるが、やはり家族がいるからこそ感じる幸せの方が大きいと思う。」、「お互いに切磋琢磨して楽しく過ごしています。よき理解者で価値観も似ていると思います。」、「家族が増えると、違う価値観に出会うので、面倒であるが、それが人間形成になる」、「主人は亡くなりましたが、楽しい時間を一緒に過ごせたことをとても良かったと思っています。」など、結婚が、家族が増える喜びをもたらし、自身の成長にもつながっているとする意見が多く見受けられました。

独身男女の結婚意向

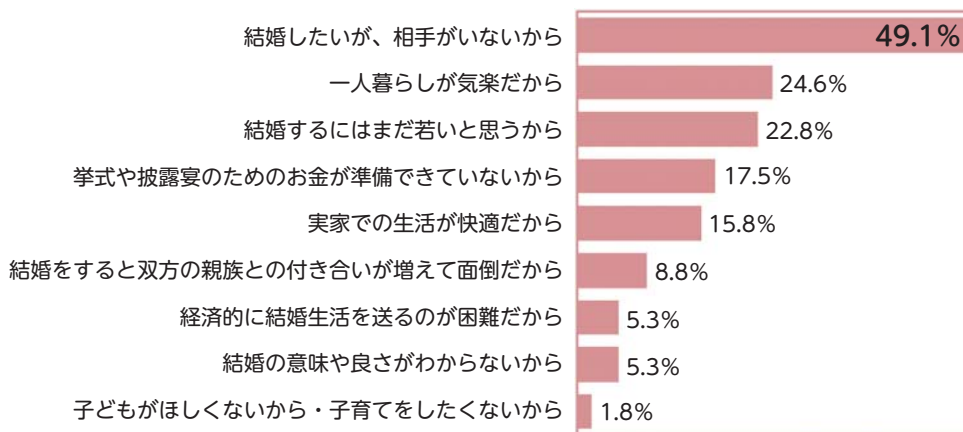


## 結婚したいが、相手がいない

独身男女に、現在未婚である理由を尋ねたところ、約半数の人が「結婚したいが、相手がいないから」と答えました。一方で、「気楽な一人暮らし」や「実家での快適な生活」を送る中で、婚活に積極的に動く必要性を感じていない様子もうかがえます。

その他には、「理想が高すぎると言われるが、妥協しても続かないと思うから」、「仕事を優先してタイミングを逃してしまったかも」といった意見や、「相手がまだ結婚を望んでいない」、「相手の親に反対されたから」といった意見が挙げられました。

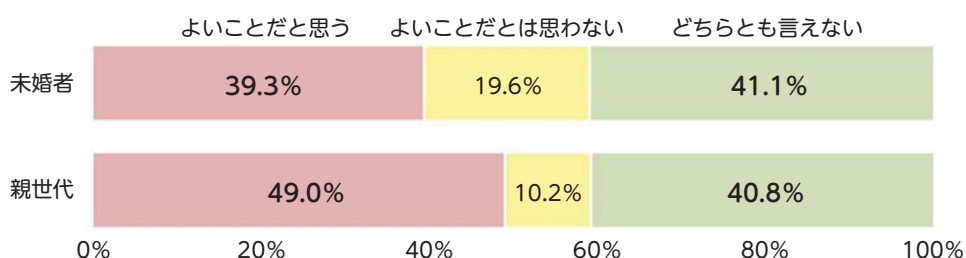
結婚していない理由 (MA)



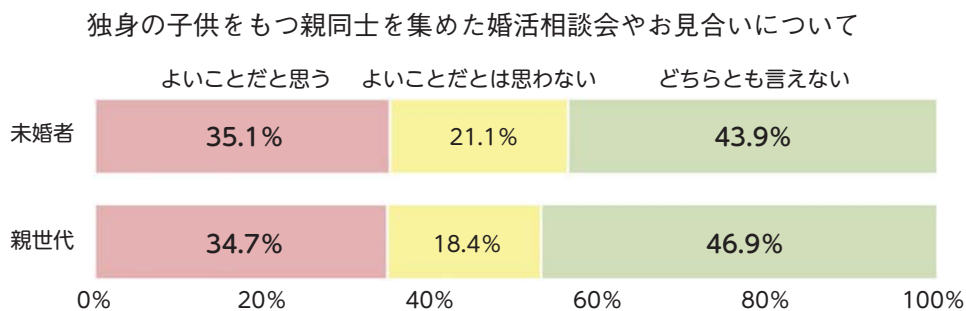
## 親は歓迎 会社による独身社員への婚活サポート

独身社員に対し会社が婚活サポートをすることをどう思うか、全員に尋ねたところ、「よいことだと思う」と答えた割合は、未婚者は約4割であるのに対し、親世代は約5割に上りました。一方、「よいことだとは思わない」と答えた割合は、未婚者は約2割であるのに対し、親世代は約1割となっており、両者の意識の違いがみられます。

独身社員に対し、会社が婚活サポートをすることについて



これに対し、独身の子供をもつ親同士を集めた婚活相談会やお見合いについては、「よいことだと思う」と答えた割合は、未婚者・親世代ともに3割超、「よいことだとは思わない」と答えた割合は、未婚者・親世代ともに約2割となっており、両者に大きな意識の違いはみられません。

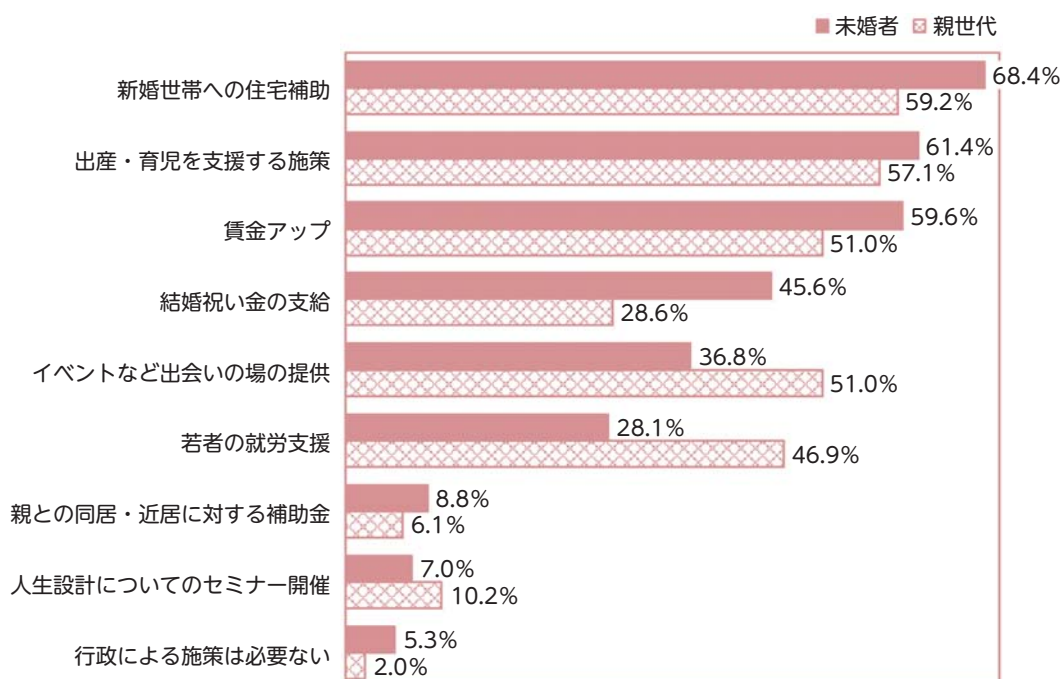


## 行政に求められるのは経済的支援と出産・育児支援

全員に対し、結婚したい（できる）と思う人を増やすために効果があると思われる行政の施策や取組みは何か尋ねたところ、「新婚世帯への住宅補助（家賃補助、住宅購入補助）」、「出産・育児を支援する施策」、「賃金アップ」が、揃って5～6割超と、未婚者・親世代ともに上位に挙がっています。

一方、「結婚祝い金の支給」は、未婚者においては45.6%であるのに対し、親世代は28.6%と低く、「イベントなど出会いの場の提供」は、未婚者においては36.8%であるのに対し、親世代に

結婚したい（できる）と思う人を増やすために効果があると思われる行政の施策や取組み



においては51.0%、「若者の就労支援」は、未婚者においては28.1%であるのに対し、親世代においては46.9%と高くなっており、ポイントに大きな開きがあります。

全体的に、未婚者は、親世代に比べ、経済的支援を強く求めている様子が見えます。

その他には、「結婚して 共働きする場合、女性の職場での支援等」、「働く女性を支援するため、保育園の充実と、保育園に預けている子供が、病気した時のサポートが必要です」といった、女性が結婚しても働き続けることができるための支援や、「親世代に対する補助（福祉の充実等）、親世代が幸せに暮らしていたら、安心して結婚できると思う」といった高齢者福祉の充実などが挙げられました。

## 「婚活」「結婚力」について

### ■婚活について

#### ～独身男女の意見から～

- 街コンに行くと市外や転勤族が多く、地元に残りたい人には不向きだった。
- 結婚は活動ではなく、フィーリングの問題だと思います。
- 婚活はお金がかかるという点で後ろ向きな人が多いと思う。
- 婚活という言葉が流行したことで、何かしなければいけないと時々慌てることもある。
- 「婚活」という言葉がつくと多少重い印象を持つ。
- 友人が「婚活、婚活」というと少し引く。
- 出会の場に、行きたいと思っても時間がとれない。行くのが不安。
- 婚活にはお金がかかるし、必ずしもいい相手に出会える保証もない。

#### ～親世代の意見から～

- うちにも結婚していい年ごろの子供がいるが、どうせ自分なんかというあきらめ模様。出会いがあるような場所にもいかないようだ。まあ本人に任せているが、同級生などが結婚するという話を聞くと複雑な心境である。
- 親の立場からだと自分の子どもがしたいようにさせてあげたい。無理に婚活しなくても良いと思う。
- 今は、俗にいう肉食系の男女が少なくなってきた

たみたいで、自分から相手探しを積極的に行なっている男女が珍しい様子。近くにもそんな子がいるが、婚活イベントとかで周りがサポートしないと動かない若者が多いように思う。ゲーム社会などで他者とのコミュニケーション不足が今の若者に多く、結婚を煩わしく思う若者が増えているのではと思っている。

- 是が非でも結婚しないといけないという気持ちがないように思います。（特にうちの長男坊）でも、自分で探してこの人と思う人を見つけるのがいいと思う。お膳立てしてもなかなかうまくいかない感じがする。

### ■結婚について

#### ～独身男女の意見から～

- 将来が不安。子供にお金がかかりそう。
- 一生に一度しか結婚できないと思うとより選んでしまう。結婚シミュレーション的なことができたらいいなあと思う。
- 結婚は少子化対策と言われるなら、もう無理。
- 結婚するなら、人に取り持ってもらいより、自分で探した人になりたいと思う。でも、それは、相手がいるだけでなく、親やお金の問題もあると思う。
- 「結婚」はしたいと思うが、なかなか自分の理想の相手に巡り合えない。タイミングも難しいと思う。



- 人生の経験として結婚しても良いと思う。その相手が気の合うパートナーなら、ずっと一緒にいても良いし。でも、結婚前に相手をよく知ることが大切。うっかり結婚して失敗するのは、自分にとってとてもマイナスだと思う。

#### ～親世代の意見から～

- 絶対結婚した方がいいと強要はしたくありませんが、自分で非婚を選択したのか、なんとなくなのか、望んでもできないのか、理由によっては支援が必要だと思います。子供もこれからは婚姻に関係なく持っていいと思います。
- 誰でも、結婚したくない訳はないと思います。ただ、煩わしさがあるのかもしれませんが。両天秤にかけたなら・・・きっと、結婚した方が楽しいと思います。離婚しないためには、どうしたら良いのか？ 相手を思いやることの大切さを教えてくれるのが結婚だと思います。
- 焦って結婚するのではなく、一度同棲をしてから結婚するのもいいかと思っています。相手の本来の姿も見ることができるので。
- 結婚に対する期待値が大きいから、逆に結婚しないのではないだろうか。もしくは、大変な状況を知り、後ずさりするのもかも。「結婚は人間修練の場であるから、大変なほどすばらしい」くらいに考えれば、気楽でよいのではないかと思う。メディアの影響とかSNSにより、他と比較しすぎ。
- 結婚生活に希望を持って欲しいです。

### ■結婚力について

#### ～親世代の意見から～

- 息子たちを見ていると、どうも自分の力で相手を見つけられるのか不安になることはある。結婚というよりは、人間力を伸ばす経験やコミュニケーションの場が増えればいいなと思う。
- 現実とあこがれの世界の区別がつかない人が多

い気がします。婚活の前に人に興味を持って、恋愛をしたほうがいいと思います。それが人の良いところを見抜く力、マイナスな面を許す力・補う力、すべてが結婚力へ繋がるのでは。それぞれの年代らしい恋愛をして、人間力を鍛えていく必要があると思います。

### ■行政の支援、社会について

#### ～親世代の意見から～

- 共働きをしないと生活できないかと思っています。共働きも良い事なので支援も必要だと思います。

#### ～独身男女の意見から～

- 子どもがほしいとは強く思うが、結婚、出産を考えると仕事を続けるのが困難と思い、婚活なども積極的になれない気持ちがあります。職場に子どもを連れて行けるなどスタンダードになればいいなと思います。
- 結婚＝生活だと思うので、まず、男性が所帯を持つのに十分な経済力があることが必須。長崎という、賃金が上がらない冷え切った町を、どうにかすべき。安い賃金で雇える保険屋の大手ばかり長崎に来るが、もっとしっかりした企業が来ないと、結局、発展が見込めない。
- 「結婚して、出産して、添い遂げる」という生き方をする人は、1950年代生まれが8割なのに対し、1980年代生まれは6割に満たない。個人の生き方や価値観が多様化しているのに、日本の社会システムや風潮が、ちっとも変化できていないと感じる。このことが、焦りや不安につながっているのではないだろうか、とも思う。「就活」「婚活」「妊活」「終活」といった「●活」で一括りにしてしまう発想が、横並びが大好きな日本的古い考えだと思う。県が取り組んでいる婚活支援センターの実績をデータで公表すべき。(税金を使っているの)

調査方法：(有)みかんコミュニケーションズが運営する長崎県内女性ネットワークMONET登録会員を中心に、インターネットとFAX及びヒアリングにより県内在住の男女106名より回答を得ました。

調査期間：2017年8月28日(月)～9月13日(水)

回答者属性：【性別】男性27名、女性79名 【年齢】10～20歳代32名、30～40歳代24名、50～70歳代50名  
【結婚】既婚49名、未婚57名 【居住地】県南89名、県北2名、県央11名、離島4名